

白ネギ栽培による水稲複合経営 の安定化を目指して

甲賀農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

K氏は、平成31年3月に農業大学校養成科を修了され、甲賀市甲賀町で父親の水稲経営に参画し、地域の気候や土壌および気象条件に即した水稲栽培に取り組まれています。

今後、水稲を継承した後、経営の安定を図るために新たな栽培品目について検討するなかで、水稲と労働競合が少なく同時期の重量野菜より売上げが見込める「白ネギ」を提案しました。令和2年度から本格的に栽培に取り組まれることから、経営継承後の水稲＋白ネギによる農業経営の安定化に向けて白ネギの栽培技術の習得を支援しました。

【普及活動の内容】

現地巡回指導により育苗期は、6月上旬の定植に向け苗質を確保するため、灌水管理とともに病害対策を重点的に指導しました。あわせて適期定植ができるよう計画的なほ場の準備を促しました。7～8月には白絹病の発生が例年になく多発したことから、被害が最小限にとどまるよう白絹病を中心とした体系的防除を組み立て、防除指導を行いました。また、収穫時期には、出荷規格にそった品質の良いものが適時収穫できるよう栽培技術の習得の支援をしました。また、記労働日誌の帳指導を行い、白ネギを導入したことが水稲と作業競合が起こっていないかチェックを行いました。



写真 収穫直前の白ネギ

【普及活動の成果】

「白絹病」が多発したものの、被害は最小限に抑えることが出来、12月中旬から収穫が始まりました。収量は、10aあたり1,300kgの目標に対し、1,616kgが収穫できたことから、売上げは目標の124%に達しました。白ネギは、自身の経営として水稲作業と競合しない作業体系で栽培が可能で、新たな収入の確保を図る経営品目として有望であることが確認できたことからK氏は次作に向けて白ネギの栽培拡大に意欲を示されています。

◎対象者の意見

白ネギ栽培は、水稲との複合品目として労働新たな収入の確保を図る点において有望であることから今後も栽培面積の拡大を図りたい（K氏）。